

＜仮訳＞

国際原子力エネルギー協カフレームワーク(IFNEC)

第7回執行委員会会合共同声明

アルゼンチン共和国ブエノスアイレス

2016年10月27日

IFNEC 執行委員会は 2016 年 10 月 27 日ブエノスアイレスにて開催され、参加各国、国際機関より大臣及び上級代表者の出席を得て IFNEC 関連事項の討議を行い、かつアルゼンチン共和国に対して、執行委員会会合、運営グループ委員会会合及び IFNEC 南米会議の開催への謝意を表した。

IFNEC ミッション・ステートメントは、参加国間の協力を進める場を提供し、効率的で安全、核セキュリティ、核不拡散の最も高い水準に合致する方法で、原子力エネルギーの平和的利用を確保する相互に有益なアプローチを探求することである。参加国はそれぞれの権利を放棄することなく、自発的な判断で参加しかつ経済的で平和的な原子力エネルギーの便益を享受するものである。

執行委員会は原子力エネルギーが担う不断の役割は、信頼性の高い、炭素排出ゼロで、長期の電源であること。COP21 の結果については、特に原子力エネルギーが二酸化炭素の排出削減に貢献するエネルギー源であることの認知を、満足を以て留意した。

執行委員会は34の参加国と31のオブザーバー国、4のオブザーバー国際機関が相互に協力し、情報共有や、IAEA、OECD/NEA との重複のないシナジー追求などを続けることを奨励する。

執行委員会は IFNEC の現在の注力点を支持する。それらは、原子力プロジェクト向けファイナンス、電力市場構造の最適化、人材養成などの基盤整備、中小型炉を含む原子炉選択肢の拡大、使用済燃料の多国間処理の検討、原子力の需給者に共通な課題への関係利害者の参加促進など。

執行委員会は、最近の以下のような IFNEC 活動について積極的な評価をもって留意した。

- IAEA/IFNEC 共催ステークホルダ聴取特別ワークショップ(2016年2月)
- IAEAEC と OECD/NEA 共催のファイナンス会議(2016年5月)
- 運営グループ会合(2016年5月)
- 基盤整備 WG 会合(2016年5月)
- 燃料サービス WG 会合(2016年5月)
- アジア大洋州原子力会議(2016年8月)
- 中小型炉に関する INPRO 対話フォーラム(2016年10月)
- ラテンアメリカ原子力会議(2016年10月)
- 運営グループ会合(2016年10月)

執行委員会は、運営グループ議長、燃料サービス WG、基盤整備 WG 各共同議長による活動成果を評価。執行委員会は NEA からの IFNEC 事務局の成功裏の移転の報告も受けた。執行委員会は以下につき、感謝する：

- NEA 事務局による 5 月会合の開催・運営。NEA マグウッド事務局長によるフィナンス会議共催。
- 事務局による IFNEC の今後の活動に関する参加国の見方を集約し、IFNEC の年間プログラム策定のためのサーベイの実)
- IDWG と IAEA 共催、フィリピン政府主催の 8 月のアジア大洋州原子力会議)
- 退任の仏ジュルネ副議長氏、日本中西副議長、仏イラク燃料グループ共同議長、UAE アルカービ共同議長のリーダーシップ
- 新任のラザール・サリー副議長(仏)、進藤秀夫副議長(日本)、ブラウスティン共同議長、ザガー共同議長のリーダーシップ
- IFNEC 事務局の円滑な運営を支えた自主的拠出金の出資国

更に、特筆事項として：

- 原子力へのファイナンスに関し、ワークショップや会合を通じて、多年にわたる課題検討を行ったこと
- IFNEC と NEA 共催の原子力ファイナンス会議の報告書「21世紀の原子力の役割-ファイナンスの課題」
- 燃料サービス WG の多年にわたる多国間廃棄物処理の検討の結果である「小規模原発国での使用済み燃料の最終処理解決への現実的な考察レポート」

執行委員会は、2017年の優先活動課題とガイダンスを、以下に示す：

- 運営グループは、新たなアドホック・原子力需給者グループの構築に関し、共同議長への志願者探索、活動プログラム策定など、コーディネートする。本グループの活動は基盤整備 WG、燃料サービス WG の活動との連携を基本とすべし。IFNEC のあらゆる参加国・機関の参加を奨励する。特に、IFNEC の供給国と需要国が参加し目的と活動計画を策定することが重要。この様な討議は、必要に応じ、個別の会合を設けて行われる場合もある。本グループの活動結果報告は 2017 年の執行委員会会合に報告され、以降の継続の是非を決める)
- 使用済み燃料と放射性廃棄物の国際的処理の構想の深化のために、燃料サービス WG は基盤整備 WG や IFNEC 参加国・オブサーバ機関との連携で重要課題の切り出しと探求を続けるべし。重要課題には、使用済み燃料と放射性廃棄物の国際的処理の国際協力の必要性検討、多国間処理の経済性、国際法、関連基盤整備の要件など。使用済み燃料と放射性廃棄物を再処理又は処分のために他国に輸出する事例検討は、将来の大規模な国際的取組の事例となり得る。
- 多国間処理のコンセプトのメリットは、IFNEC の場で、もっと取り上げられ、IFNEC 参加国、特に、自国で地層処分を進めることに制約のある国、特に使用済み燃料と高レベル廃棄物の地層処分をするには制約のある各国が、多国間処理の課題と便益について理解を深めるよう

すべし。これら各国での多国間処理構想は、その自国処理プログラムに加えて検討されるべし(並行検討とする)。

- 燃料サービス WG と基盤整備 WG は NEA や IAEA 他との技術面の連携を継続的に探求すること
- 安全性とセキュリティの必要性を高めるための重要事項を取り上げるべし、それらは、人材養成、原子力規制整備、緊急時管理計画、長期的な放射線廃棄物管理、原子炉技術の選択肢などを含む。
- 基盤整備WGは、安全、核セキュリティ、核不拡散等の重要課題への取組を革新的に育成すし、全世界の原子力損害賠償制度を含む原子力損害賠償への認知度を向上させることに、IFNECが貢献できる方法を探求すべし。
- 2016年のフィリピンでのアジア大洋州及び2015年のアフリカでの良好結果を踏まえ、基盤整備WGはIAEAとの連携の継続をすべし。
- 事務局は、サーベイ結果の分析を続け、2017 年第一四半期までに統合報告書の完成と各国との共有をおこなうこと。

執行委員会は:

- 執行委員会は、全ての IFNEC 参加国、オブザーバー国は来年 6 月 26 日の週のパリでの会合への参加を奨励する。